

令和 7 年度

第 1 回上牧町協働のまちづくり公募型補助金審査判定委員会

議 事 録

日 時 令和 7 年 7 月 31 日 (木) 午前 10 時 00 分から
場 所 上牧町役場 2 階 第 3 会議室
委 員 小林三紘委員、濱野進委員、小島奈美委員、鶴谷将彦委員、福井希実委員、中川恵友委員 (総務部長)、吉川昭仁委員 (都市環境部長)
事 務 局 中本課長、土井課長補佐、中村主事
次 第 ①開会
②要綱改正概要説明
③申請者によるプレゼンテーション
④補助金交付の適否の審査・判定
⑤閉会

◆開会

◆申請者によるプレゼンテーション

【申請事業：認知症カフェの運営事業】

- ・事務局から審査対象事業の概要説明
- ・申請団体代表者によるプレゼンテーション

<申請事業概要>

事 業 名：認知症カフェの運営事業

団 体 名：ハナミズキ

事 業 費：158,000 円

補助対象経費：158,000 円

補 助 金 額：150,000 円

<各委員からの意見質問等>

委 員：有償ボランティアについて、ハナミズキのメンバーが有償ボランティアにあたるということではなく、住民のかたから別途募集するということか。

申請者：そのとおりである。ハナミズキのメンバーは無償ボランティアとして活動し、別途有償ボランティアを 5 名ほど募り、上牧町に認知症サポーターを増やしていきたいと考えている。

委 員：認知症カフェの開催場所はどこを想定しているか。

申請者：ラスパ西大和にあるささゆりルームがよいと考えており、第 1 回目を同施設で開催したが、音の反響があり、やりづらさがあったので、第 2 回目は友が丘公民館を使用す

る予定である。

委 員：認知症サポーターは未経験のかたには難しいと思うが、認知症サポーターを育てるといことも考えているか。

申請者：第 1 回目開催にあたり、1 度ささゆりルームで認知症サポーター養成講座をさせていただいた。同講座参加者に今回ボランティアとして来ていただくこととしている。

委 員：飲食を伴うカフェを計画されているということであるが、何か許可は必要か。

申請者：完成品を提供するので、届出は不要である。認知症のかたやグレーゾーンのかた、そ
のご家族が来て、みんなでお茶をするといったイメージである。閉じこもってしまっ外
に出られなくなったかたをご家族に連れ出していただき、カフェに集まったかたと自己
紹介や好きなものについておはなしをしていただくといったものが第 1 回目の様子で
あった。第 2 回目は奈良市で認知症デイをされているかたを講師としてお招きし、ミニ
講演をしていただく予定である。

委 員：今回される認知症カフェの構成員名簿を確認していると、介護支援事業所かごめご所
属のかたが多くみられます。介護の相談などがあれば「誘導」というようなことも考えら
れるが、ハナミズキとかごめの関係性が気になる。

申請者：例えばかごめのみを紹介するといったことがあればそのようなご意見もあらうと思う。し
かし、本事業は単に認知症のかたがどこに行ったらよいかもわからないという現状が
あり、その窓口づくりとして活用していただきたいと考えている。かごめのみに誘導する
ということは考えていない。

委 員：かごめの要素が強くなるのであれば、同事業所がご自身で事業展開するべきだという
意見が出てくる。困っているかたに利用していただくということは非常に大切なことであ
るが、一方でそれがかごめにとっての営業活動と捉えられてはいけない。その点を担保
できるような仕組みづくりは必要ではないかと考える。

申請者：今回の補助金申請にあたり、構成員が 5 名必要だったので、一旦構成員をかごめ所
属の者から選出したが、将来的にはかごめからではなく、現在認知症サポーターをし
ていただいている有償ボランティアに主となって運営をお願いしたいと考えている。

委 員：行政との関わりについて教えていただきたい。既に行政と何かはなしをされて、今回こ
のような事業を計画されたのか、行政とは別で考えておられるのか。

申請者：地域包括所管の生き生き対策課にもこういうことをするというはなしはしており、窓口
広報用チラシを置かせていただいている。

委 員：1 回目が認知症のかたとそのご家族合わせて 26 名集まったということであるが、その
内認知症のかたは何名であったか。また、今後本事業の利用者をどのようにして募る
予定か。

申請者：認知症のかたは 5 名であった。チラシをケアマネージャーに配らせていただき、ケアマ
ネージャーとともにカフェにお越しいただけたらと考えている。ご本人から行きたいと
言うかたは少ないので、ご家族を巻き込むかたちで募っていきたいと考えている。

委 員：現在上牧町に認知症のかたが何名いるか把握しているか。

申請者：認知症と診断されているかたは受診をされて、投薬できるかたとなるが、実際には診
断はなくても、認知症だろうなというかたはたくさんいらっしゃる。具体的な数字は把握
できていない。

委 員：今後この事業が知られていくにつれ、利用者も増加する見込みか。

申請者：増加していけばよいと考えているが、閉じこもり傾向があるので、ご家族のかたの協力であったり、声かけだったりが必要であると考えている。

委員：お配りいただいた毎月第 3 火曜日にささゆりルームで開催するというチラシを見させていただいての質問ですが、これと先ほどご説明のあった友が丘公民館でのカフェはまた別のものか。

申請者：同じものである。ささゆりルームは音が反響するという課題があったので、場所を変更して今回は 8 月 19 日の第 3 火曜日に実施の予定である。

委員：支出の報償費として外部講師への謝礼が 3 回とあるが、どういったかたをお呼びする予定か。

申請者：8 月には認知症デイをされているかたをお呼びする予定である。あとはリハビリの講師も予定している。

委員：毎月第 3 火曜日に開催するということだが、4 回ではなくて毎月開催で間違いないか。

申請者：当初は 4 回と考えていたが、利用者から毎月開催してもらいたいというお声があったので、毎月第 3 火曜日に実施したいと考えている。

委員：今回提出のあった収支予算書は 4 回分であるので、予算不足にはならないか。

申請者：変更等承認申請書を提出したいと考えている。

委員：お配りいただいたチラシはカフェ利用 150 円と記載がある一方で、収支予算書は 200 円と記載がある。どちらが正しいか。

申請者：そちらについても利用者のお声を基に今後は 150 円に統一する。

<審査結果>

プレゼンテーション説明と収支予算書に乖離があったことから、再度事務局においてヒアリングを行うこととなった。

→ヒアリングの結果、申請書類の差し替えを行うこととなり、改めて審査判定委員会(8 月 20 日)で内容を確認した結果、適正であると認められた。

<申請事業概要(差し替え前)>

事業名：認知症カフェの運営事業
団体名：ハナミズキ
事業費：158,000 円
補助対象経費：158,000 円
補助金額：150,000 円

<申請事業概要(差し替え後)>

事業名：認知症カフェの運営事業
団体名：ハナミズキ
事業費：160,500 円
補助対象経費：160,500 円
補助金額：150,000 円

◆閉会

終了 正午